

前期/後期	学域	専攻	カリキュラム・ポリシー																								
		工芸科学研究科	<p>大学院工芸科学研究科では、各専門分野の最先端で活躍できる国際的高度専門技術者、研究者等の養成を行っています。</p> <p>各専攻等の教育プログラムは、研究科ディプロマ・ポリシーに掲げる「高度な専門的知識・能力」、「実践的外国語能力」(以上、博士前期課程)や「創造性豊かな優れた研究・開発能力」、「国際経験」(以上、博士後期課程)等と、各専攻のディプロマ・ポリシーに掲げる各専門分野に応じた能力を身につけることができるよう、より高度な技術と理論を追求できること、人や環境と調和する21世紀型科学技術の探求に繋がること、幅広い視野を身につけた高度専門職業人の育成に寄与できること、に留意して構築されています。</p> <p>教育課程の編成にあたっては、各専攻の特性に応じて、講義、演習、実習、インターンシップ等の授業科目を配置し、高度な専門的知識・能力や国際性の向上に資する機会を提供しています。加えて、「専攻共通科目」により、各専門分野にまたがる分野横断的な授業科目を配置し、幅広い視野を身につけるための機会を提供しています。</p> <p>各授業科目の学習成果は、試験、レポート、発表、授業への参加意欲等により評価します。また、修士論文または特定の課題についての研究の成果並びに博士論文については、各専攻が定める評価基準に基づいて審査を行います。</p> <p>なお、本学では、国際的に活躍できる理工科系専門技術者 (TECH LEADER) の育成に向けて、「3×3(スリー・バイ・スリー)」と呼ばれる教育プログラム・システムを採用しています。「3×3」は、TECH LEADER育成の基本となる大学院工芸科学研究科博士前期課程までの6年間とその後の博士後期課程の3年を含めた9年間を見据えたシステムです。</p> <p>「3×3」の全授業科目についてナンバリングが実施されており、体系的にプログラムが編成されています。なお、大学院における授業科目では、原則、クォーター制(4学期制)を採用していますが、2学期制で行っている授業科目もあります。</p>																								
		専攻共通科目	<p>大学院の高等教養教育として開講されている「専攻共通科目」には、基盤教育学域所属教員によって担当される科目以外にも、学内外の教員によって、繊維、知的財産権、インターンシップ等に関わる科目が提供されています。</p> <p>このように多様な科目を履修することによって、専門特化する教育・研究を支える基盤を養成することを目指します。</p>																								
	応用生物学域	応用生物学専攻	<p>博士前期課程及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修、教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 課程において修得した生体構成分子(タンパク質、核酸、脂質、糖など)の構造と機能、および生命現象(代謝、遺伝、発生、生理、行動)の基礎的知識をもとに各分野における専門的な講義を行い、知識の体系化と高度化をはかるプログラムを提供します。</p> <p>B. 少人数クラスの特別演習により、英文の論文講読を実施し、最新の知見を学び、それらを応用できる能力の向上をはかります。また、プレゼンテーションやディスカッション能力の向上をはかり、グローバルな場でもそれが発揮できるプログラムを提供します。</p> <p>C. 生命現象に対して鋭い着眼点を有し、自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力により課題を解決する能力を身につける実践的な特別実験プログラムを提供します。</p>																								
	博士前期課程	物質・材料科学域	<p>本専攻では、高機能化及びハイブリッド化材料の創製にかかる基盤を形成させるため、高分子物性工学、無機材料科学、材料物理化学、並びに光工学などの教育を展開します。すなわち、物理化学、高分子材料科学、固体化学、材料設計学等の学部レベル教育の基礎を前提とし、その上に光電子材料、高機能繊維材料、機能性セラミック材料等の機能発現の仕組みを理解し、新物質の創出に展開できる能力を涵養するとともに、実用材料の創製へと展開する能力の基礎を身に付けさせます。講義科目としては以下の5分類を柱とし、これに加えて、研究・演習を通じて、科学的原理だけでなく技術・方法を体得し、さらに判断力・プレゼンテーション能力等を外部での発表機会により身に付けさせます。</p> <table border="1" data-bbox="598 1563 1390 1756"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th colspan="3">講義科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物理化学</td> <td>素反応速度論</td> <td>有機・高分子光物性工学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高分子材料科学</td> <td>機能高分子材料</td> <td>ナノ材料物性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>無機材料科学</td> <td>ガラス・アモルファス材料科学</td> <td>無機材料物性学</td> <td>応用固体化学</td> </tr> <tr> <td>材料設計学</td> <td>光電子材料化学</td> <td>分子機能設計</td> <td>無機材料応用科学</td> </tr> <tr> <td>複合化学</td> <td>応用バイオ繊維科学</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分類	講義科目			物理化学	素反応速度論	有機・高分子光物性工学		高分子材料科学	機能高分子材料	ナノ材料物性		無機材料科学	ガラス・アモルファス材料科学	無機材料物性学	応用固体化学	材料設計学	光電子材料化学	分子機能設計	無機材料応用科学	複合化学	応用バイオ繊維科学		
分類	講義科目																										
物理化学	素反応速度論	有機・高分子光物性工学																									
高分子材料科学	機能高分子材料	ナノ材料物性																									
無機材料科学	ガラス・アモルファス材料科学	無機材料物性学	応用固体化学																								
材料設計学	光電子材料化学	分子機能設計	無機材料応用科学																								
複合化学	応用バイオ繊維科学																										
		材料制御化学専攻	<p>専攻の教育目標を実現するための教育プログラムは、物理・物理化学、高分子物性科学、無機物性科学、高分子化学等の学部レベル教育の基礎を前提とし、その上に高分子及び無機物質の物性発現の基礎・原理を理解するために、以下の方針で編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 革新的な材料開発を担う基礎並びに応用能力を修得させる。 研究を遂行する際に求められる、研究計画、実験・計算技術、データ解析・考察などの能力を養う。 専門分野の研究成果をグローバルな視点で捉え且つ発信する素養を身につけさせる。 																								

前期/後期	学域	専攻	カリキュラム・ポリシー																									
博士前期課程	物質・材料科学域	物質合成化学専攻	<p>本専攻では、有機化学、高分子化学、分子材料化学等の学部レベル教育の基礎を前提とし、その上に有機低分子化合物、高分子化合物および各種ハイブリッドの分子設計・材料設計の指針を理解し、新物質の創出に展開できる能力を涵養するとともに、それら化合物や材料を効率的に合成する新たな方法を提案できる能力の基礎を身に付けるための教育を実施します。そのために、有機物、無機物、高分子化合物の合成化学はもとより、これらを複合化した材料創成のための適用範囲の広い合成化学、精密分子設計、ならびにヘテロ元素化学などの教育内容を展開します。講義科目としては以下の4分類を柱とし、これに加えて、研究・演習を通じて、科学的な原理・原則の理解のみならず、実際に各種化合物を合成するための実務的な技術・方法を体得し、さらに学内・学外での発表機会を多く与えることで、的確な構成力・判断力・プレゼンテーション能力等の向上を目指します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th colspan="4">講義科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機化学</td> <td>有機反応制御化学</td> <td>有機ヘテロ原子化学</td> <td>触媒反応設計学</td> <td>バイオミメティック合成化学</td> </tr> <tr> <td>高分子化学</td> <td>高分子物質設計論</td> <td>バイオベースポリマー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>分子材料化学</td> <td>有機分子材料化学</td> <td>有機精密材料学</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>複合化学</td> <td>化学工学特論</td> <td>分離媒体設計論</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分類	講義科目				有機化学	有機反応制御化学	有機ヘテロ原子化学	触媒反応設計学	バイオミメティック合成化学	高分子化学	高分子物質設計論	バイオベースポリマー			分子材料化学	有機分子材料化学	有機精密材料学			複合化学	化学工学特論	分離媒体設計論		
		分類	講義科目																									
	有機化学	有機反応制御化学	有機ヘテロ原子化学	触媒反応設計学	バイオミメティック合成化学																							
高分子化学	高分子物質設計論	バイオベースポリマー																										
分子材料化学	有機分子材料化学	有機精密材料学																										
複合化学	化学工学特論	分離媒体設計論																										
機能物質化学専攻	<p>本専攻では、生体機能物質の創製及び新規物質の機能解析にかかる基盤を高度化させるため、生体関連化学、分析化学、分子構造化学、生体高分子化学及び化学工学などの分野の高等教育を展開します。すなわち、物理化学、分析化学、有機化学、高分子化学、生体関連化学等の学部レベル教育の基礎を前提とし、その上にタンパク質や核酸・多糖・生理活性物質の複雑な性質・構造を理解し、新物質の創出に展開できる能力を涵養します。さらに、その様々な物質の機能性を高精度で解析するために必須の分光学および分析化学については、それらの基本原理と計測・解析技術の基礎を身に付けさせます。講義科目としては以下の5分類を柱とし、これに加えて、研究・演習を通じて、科学的原理だけでなく技術・方法を体得し、さらに判断力・プレゼンテーション能力等を外部での発表機会による経験を通して習得します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th colspan="2">講義科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物理・分析化学</td> <td>分離分析化学</td> <td>分子構造化学</td> </tr> <tr> <td>高分子化学</td> <td>バイオベースポリマー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有機化学</td> <td>生体反応機構論</td> <td>生体制御分子設計</td> </tr> <tr> <td>生体関連化学</td> <td>タンパク質機能構造</td> <td>高分子生化学機能</td> </tr> <tr> <td>複合化学</td> <td>応用バイオ繊維科学</td> <td>化学工学特論</td> </tr> </tbody> </table>	分類	講義科目		物理・分析化学	分離分析化学	分子構造化学	高分子化学	バイオベースポリマー		有機化学	生体反応機構論	生体制御分子設計	生体関連化学	タンパク質機能構造	高分子生化学機能	複合化学	応用バイオ繊維科学	化学工学特論									
分類	講義科目																											
物理・分析化学	分離分析化学	分子構造化学																										
高分子化学	バイオベースポリマー																											
有機化学	生体反応機構論	生体制御分子設計																										
生体関連化学	タンパク質機能構造	高分子生化学機能																										
複合化学	応用バイオ繊維科学	化学工学特論																										
設計工学域	電子システム工学専攻	<p>本専攻の教育目標を実現するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。講義は、材料・プラズマ・デバイス・回路・電磁波・光・信号処理・通信・計測などの広い領域をカバーしています。また、設計・解析・制御に関する技術を教えています。さらに知的財産権などの社会的視点を涵養し、英語による論文作成能力やコミュニケーション能力を高めるために海外留学を推奨するとともに、産業界の振興に向けてインターンシップに参加することも推奨しています。本専攻では、本学の3×3制度に則り、学部4年次を博士前期課程の0年次(M0)とみなして、M0に該当する学部学生の大学院博士前期課程の科目の受講を認めています。</p>																										
		情報工学専攻	<p>専攻の教育目標を実現するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎理論を含め、今後の技術進歩に対応するための基礎固めを行います。 専門的で、最新、最先端の内容を修得するために所属教員の研究分野の特長を活かした教育を行います。 特別研究などを通して、ディプロマ・ポリシーに挙げた能力を高いレベルで獲得するための研究活動を行います。 <p>なお、講義科目は主に第1、第3クォーターに開講し、第2、第4クォーターは、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力のさらなる向上を目指して、インターンシップあるいは短期留学に利用することを想定したプログラム編成です。</p>																									

前期/後期	学域	専攻	カリキュラム・ポリシー
	設計工学域	機械物理学専攻	<p>ディプロマポリシーに定められた事項の達成に導くため、下記のカリキュラムポリシーに基づいて専門実践修練段階の教育プログラムが編成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度かつ実践的な専門知識の習得 様々な物理現象を解明するための高度な理論的、実験的及び数値的解析手法を理解する能力と、それを実践できる専門的な能力を育成します。 展開力と創造力の育成 専門基礎形成段階で養った専門知識を応用した実際の工学的問題に対する理論的展開力を養成します。また、機械工学の様々な産業分野に現れるクリティカルな物理現象を、力学的・物理学的観点から深く探求することで問題の本質を理解できる能力を養成するとともに、旧来の限界を突破することのできる新たな価値を創造する力を育成します。 国際性と倫理観の養成 国際的に活躍できる自己発信能力を涵養し、技術者・研究者に必要な倫理観を養成する教育を行います。
		機械設計学専攻	<p>ディプロマポリシーに定められた事項の達成に導くため、下記のカリキュラムポリシーに基づいて専門実践修練段階の教育プログラムが編成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先端的かつ幅広い専門性の育成 本専攻では機械工学を始めとして様々な分野の先端的テクノロジーを理解できる能力を養成することで、人間社会が抱える様々な課題や要請の本質を的確に理解する力を涵養します。 応用力と創造力の育成 高度な工学的知識を横断的に駆使することにより、実際の工学的問題に应用する能力を養成することで、革新的かつ実践的な新しい価値をデザインする「実践的価値創造力」を養成する教育を行なっていきます。 国際性と倫理観の養成 国際的に活躍できる自己発信能力を涵養し、技術者・研究者に必要な倫理観を養成する教育を行います。
博士前期課程	デザイン科学域	建築学専攻	<p>教育プログラムは、学部教育において建築一般の見識を深めた建築系学科卒業生に対して、専門性に踏み込みつつ、実社会への適応力も身につけるための重点的な教育を意図して編成されます。上記の教育目標を共通する方針とした上で、それぞれに以下の方針に基づく教育プログラムが編成されています。</p> <p>まず、建築設計教育として、建築をとりまく住環境・都市環境・自然環境、その共生に向けた生態学的知識や、環境コントロール技術をマネジメントするとともに、それらをより高い芸術性の中で取りまとめられる能力を修得させます。我が国の一級建築士資格のみならず建築実務における職能の国際推奨基準に対応しつつ、以下の方針に基づく高度な職能教育カリキュラムを編成しています。そのために、</p> <p>①国際競争力を有する建築設計能力の育成 世界中から第一級の専門家を中長期にわたって招致するとともに、本学教員、学生も広く海外へ教育・研究活動を展開して、地球規模での研究力及び実践力を修得させます。</p> <p>②都市・建築の再生・リデザイン能力の育成 地域の歴史、環境、社会を読解する能力を身につけ、その問題点・改善点を的確に認識・分析した上で、未来に向けた良好な生活空間形成についての企画・提案能力を修得させます。また、建築遺産のストック活用とマネジメントのための技術と技能を磨きます。</p> <p>以上の方針を基に、京都からの発信を強く意識し、日本のみならず世界の都市・建築とその環境のデザインを創造的にリードする、高度な能力を持つ建築家を育成します。</p> <p>一方で、21世紀におけるストック型社会への転換を強く意識し、既存の都市・建築を活用すべきストックとしてとらえ、その保存・修復・再生、あるいはその保全に向けた総合的マネジメント能力を育成します。以下の方針に基づく高度な職能教育カリキュラムを編成しています。そのために、</p> <p>①ストックとしての都市・建築の保存・修復・再生能力の育成 都市・建築のストック活用を学ぶのに、京都ほどふさわしい都市はありません。京都の特性を強く意識した上で、都市史・建築史、建築計画、都市・建築史、構造、建築設計の各分野から、都市・建築ストック活用の方法とその実践を学びます。</p> <p>②都市・建築遺産の保全におけるマネジメント能力の育成 都市・建築の保全一般には、分野ごとの専門的知識に加え、それらを総合するマネジメント能力が強く求められます。講義と演習、そして実社会のプロジェクトへの参加を通して、マネジメント能力を育成します。プロジェクトは国内に限定せず、アジアをはじめとする海外諸国にも求め、国際的観点に立ち都市・建築の保存・修復・再生の実務能力を磨いていきます。</p> <p>以上の方針を基に、ストックとしての都市・建築の保存・修復・再生能力、あるいはその保全に向けた総合的マネジメント能力を身につけた、当該分野のリーダーとなりえる都市・建築専門家、具体的には再生・リデザインを得手とする建築家、修復建築家、都市・建築プランナー、ヘリテージマネージャー、構造・環境技術者等を育成します。そのため、授業科目として企業のみならず地域や海外でのインターンシップを正式に位置付け、多様な建築実務経験を積極的に促しています。また、学部4年次を博士前期課程0年次と見なして、MOに相当する学生には大学院博士前期課程の一部科目の入学前の受講を認めるなど、博士後期課程の3年間を含めた3×3制度による9年間の教育プログラム・システムの実践を進めています。</p>

前期/後期	学域	専攻	カリキュラム・ポリシー
博士前期課程	デザイン科学域	デザイン学専攻	<p>本専攻では、専門的デザイン教育及び産学連携プロジェクト(PBL)を専門科目および各研究室で実施します。同時に、異分野協働によるインターディシプナリーを経て、未来価値を新たに創造するため、各種企業や団体、研究機関等との連携プロジェクト授業群によって、より大きな枠組みから製品やサービスを革新することのできる人材を養成します。海外企業との共同による「グローバルイノベーションプログラム」や、世界的に活躍するデザイナーが指導する研究ユニットでの連携プロジェクトなど、段階的により大きな異分野混合チームワークを経験させることで、国際的に活躍できるデザイン能力を修得させます。</p> <p>また、キュレーション分野においては、ゼミ形式によりみずからの研究テーマを教員・院生の前で口頭発表し、ディスカッションを重ねると同時に、キュレーション資料演習において美術工芸資料館収蔵資料を用いた「キュレーション」を経験することにより、みずからの研究を論文や「企画」、「編集」、「ディレクション」、「展示」、「発信」というかたちで提示するための基礎力を習得させます。これは、学芸員希望者にとっては、実践力を身につける機会となり得ます。</p>
		京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	<p>本専攻の教育課程では、「建築学における基本的な知識や技能に加え、国際的にも通用するより高度な設計能力や研究能力と、それを応用する能力」の習得を目指しています。いわば国際通用性のある高度国際専門職の育成を目指して、教育方針を立て、カリキュラム編成を行っており、これらを反映して以下のような特色を有しています。</p> <p>① 英語を共通語としたコミュニケーションを円滑にできるような語学能力を身につけ、さらにグローバルな視点の獲得を目指して、授業は日本・タイ両国でそれぞれ一定期間履修することを原則とし、日本・タイ両国の教員による英語を用いた講義・実習を設ける。</p> <p>② 国際的に通用する建築計画・設計能力および都市・建築の再生・リデザイン能力を習得し、これらをもとに総合的で論理的に思考する能力を獲得することを目指して、建築設計学および都市・建築再生学を中心とした講義・実習を設ける。</p> <p>③ 講義科目により得た知識・能力などを実社会で実践していくためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を獲得するため、日本・タイ両国において実習を行い、さらに両国の教員・学生の合同による実習を行う。</p> <p>④ 様々な文化的背景を持つ都市・建築空間を地域に根ざして読み解く能力を獲得し、そこから独創的で新しい発想へと展開させることを目指し、互いに相手国で一定期間居住し異文化において生活しながら履修する。</p> <p>また、建築学専攻と同様に、授業科目として企業のみならず地域や海外でのインターンシップを設定し、多様な建築実務経験を積極的に促しています。さらに、学部4年次を博士課程前期課程0年次と見なして、MOに相当する学生には大学院博士前期課程の一部科目の入学前の受講を認めるなど、博士後期課程の3年間を含めた3×3制度による9年間の教育プログラム・システムの実践を進めています。</p>
	繊維学域	先端ファイブプロ科学専攻	<p>専攻の教育目標を実現するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。本専攻の博士前期課程では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高機能繊維・複合材料 2. 生体や生活に適合するテキスタイル素材 3. 天然繊維資源の有効利用 4. 感性に訴えるテキスタイル製品の設計手法 5. テキスタイル製品の感性面からの評価手法 6. 染織文化財の保存技術、感性機能評価 <p>などの教育研究によって、テキスタイル分野における高度専門技術者の養成を行います。</p> <p>また本専攻では社会人のために、特定課題型コースでの受け入れを積極的に行っています。</p>
		バイオベースマテリアル学専攻	<p>専攻のディプロマ・ポリシーに従って人材を育成するため、教育プログラムは以下の方針で編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオベースマテリアルに関する基礎的知識を身につける。 2. バイオベースマテリアルに関する最先端の研究とその課題を理解する。 3. 英語で提供される講義を理解し、自分の研究内容を英語で説明する。 4. バイオベースマテリアルに関する既存研究の問題点を理解し、個別に与えられた課題を指導教員の下で遂行する。 5. 研究室で取り組んでいる課題を理解し、研究活動において協働する。

前期/後期	学域	専攻	カリキュラム・ポリシー
博士後期課程		専攻 共通科目	博士後期課程の各専門分野にまたがる横断的な科目や一専攻内に止めずに広く受講することが期待されている科目として、数学、言語、人文・社会科学、運動生理学、造形等に関する科目を提供します。
	応用生物学域	バイオテクノロジー専攻	<p>博士後期課程及び専攻のディプロマ・ポリシーに定める能力を修得させるため、本専攻では、次のような学修、教育到達目標を定めており、これに基づいた教育プログラムを編成しています。</p> <p>A. 多様な生命現象に対して鋭い着眼点を有し、社会における諸問題に対して、卓越した発想力と思考力で、バイオテクノロジーを駆使できる能力を身につける講義と特別演習プログラムを提供します。</p> <p>B. 特別演習と研究指導により、日本語並びに英語でのプレゼンテーションができるだけでなく、英語による論文執筆が出来る能力を身につけるプログラムを提供します。</p> <p>C. 特別演習と研究指導により、自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力と分野横断的総合的視野を有し、リーダーシップを発揮して課題を解決することで、バイオテクノロジーの研究者としての能力を身につけるプログラムを提供します。</p>
	物質・材料科学域	物質・材料化学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規な物質・材料を開発するための共通概念の修得と専門知識の高度化を図るために、講義科目を6領域に区分して提供します。 ・ 演習科目により、専攻の関係教員の直接指導の下で、各自の専門に応じた学術情報の調査・まとめ・発表を実施し、最先端の物質・材料開発研究に自力で取り組む基盤やプレゼンテーション能力及びグローバルなコミュニケーション能力を培います。 ・ 博士論文の研究指導により、課題の設定から計画の立案、実施、並びに成果発表に至る物質・材料開発研究の総合力が涵養される教育を提供します。 ・ 社会人及び外国人留学生などの多様な学修歴を持つ学生にも対応する教育プログラムを提供します。
	設計工学域	電子システム工学専攻	<p>専門分野の研究を深めると同時に、博士後期課程で従事する専門研究分野とは異なる分野における専門知識も修得します。俯瞰性と国際性を醸成するために、それぞれ「イノベーションプロジェクト」と「グローバルインターンシップⅢ・Ⅳ」を開設しています。</p> <p>以上の教育プログラムの履修により、深い専門性と幅広い領域にわたる俯瞰的視野を備えた世界で活躍できる人材を育成します。また、外部から招聘教授や第一線研究者を招いて研究会を開催し、そこで研究成果を発表する機会を与えます。これにより博士後期課程での研究の進捗状況の検証が客観的に行えるようになります。また、深い議論を通じて、高い研究成果に繋がるように仕向けています。</p>
		設計工学専攻	<p>本専攻では、具体的に、次の(1)～(5)に掲げる例のように、情報・通信、機械システム、並びにデザインマネジメントにわたる範囲をカバーし、21世紀の最先端ものづくりに係わる独創的な設計工学(engineering design)手法を展開・適用でき、海外や地域でも活躍できる高度専門技術者、研究者を育成する教育と研究を遂行しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 素材の解析、評価、加工、及びそれらのシステム化を含めた理論の構築と応用。 (2) 情報を解析するための数理的手段の考案。 (3) コンピュータのハードウェアやソフトウェア及び人間との係わり合いに配慮した総合的情報システムの開発。 (4) 情報処理や生産技術体系等の複雑な複合システムについての解析、評価、計測、予測、及び制御。 (5) 材料の選定から各種工業製品の製作に至る一連の工程についての構成、評価、設計、加工、管理、及びその最適化や知能化。

前期/後期	学域	専攻	カリキュラム・ポリシー
博士後期課程	デザイン学域	建築学専攻	<p>教育プログラムは、博士前期課程において都市・建築の設計や再生に関する実践的教育を受けた学生や建築実務社会人を対象に、そこからさらに高度な知識・技能を学び、建築設計、都市・建築の再生に関わる新たな技術や理論の構築を担う、あるいはその技術・理論を背景としながら、建築や都市と社会政策を通じてリードしていける人材を育成することを目指して編成されます。上記の教育目標を共通する方針とした上で、それぞれに以下の方針に基づく教育プログラムが編成されています。</p> <p>まず、高度設計者養成コースです。博士前期課程で身に付けた知識・技能、あるいは、実社会で身に付けた実践的設計能力と実績に基づいて、後期課程では、より高度な設計哲学とそれに基づく実践的な設計能力の育成、さらに、研究者・教育者としてのより専門性の高い研究を実践していきます。</p> <p>高度な設計能力を有する人材は、近年における建築業界の国際化の進展に対応した多角的展開を見せるスーパーゼネコンに代表される企業等で不可欠な存在となっています。また、教育者としての高度な専門性は、海外有力大学における建築設計教員が博士号を有することが一般化しているように、実践的設計能力に加えて研究者・教育者としての資質と資格が求められています。</p> <p>博士前期課程修了後に、実社会において建築設計業務に携わり、実作として優れた建築作品業績を積み重ねた設計者が、専門教育機関の教員や企業の海外展開を牽引する役割としてのキャリアを目指すための領域としても期待されます。</p> <p>一方、博士後期課程では、建築ストックの保全や都市再生に関わる多様な技術・技能に関してより専門性の高い研究を行い、新たな技術や理論を開拓することが求められます。こうした社会ニーズに応えるため、新たな技術や理論を自ら開拓でき、さらにそれを背景として、ストック社会の構築をリードできる人材を養成すべく、授業科目として地域や海外でのインターンシップを正式に位置付け、多様な建築実務経験を積極的に促すなどの教育プログラムを編成しています。これにより、技術・理論構築を継続的に続ける研究者、都市再生事業全体を高度な次元で統括する国・地方自治体の専門技官、近年広まりつつある地域の建築ストックの活用をリードする建築家であるヘリテージマネージャー等を育成します。</p>
		デザイン学専攻	<p>デザイン学領域では、専門的デザイン教育及び産学連携プロジェクトを専門科目および各研究室で実施します。同時に、異分野協働によるインターディシプナリーを経て、未来価値を新たに創造するため、各種企業や団体、研究機関等との連携プロジェクト授業群によって、より大きな枠組みから製品やサービスを革新することのできる人材を養成します。海外企業との共同による「グローバルイノベーションプロセス」や、世界的に活躍するデザイナーが指導する研究ユニットでの連携プロジェクトなど、段階的により大きな異分野混合チームワークを経験させることで、国際的に活躍できるデザインディレクション能力を修得させます。</p> <p>また、キュレーション学領域では、ゼミ形式によりみずからの研究テーマを教員・院生のまゝで口頭発表し、ディスカッションを重ねることにより、研究分野における考察力を深め、同時に、ディベートによる質の高い討論能力を身につけます。さらに博士論文の作成と並行して、研究対象および研究成果をもっとも有効に示すことのできる「キュレーション」をおこない、そのためのカタログ作成を義務づけます。それにより、みずからの研究を客観視する能力と幅広い発信力を身につけることができます。</p>
	織維学域	先端ファイブロ科学専攻	<p>本専攻の教育目標を実現するため、博士後期課程の教育プログラムは、テキスタイルサイエンスの深掘り、より高度な複合材料の設計技術、感性評価技術の応用、リサイクル技術の応用などの教育研究によって、テキスタイル分野におけるより高度な専門技術者の養成を行います。</p>
		バイオベースマテリアル学専攻	<p>専攻のディプロマ・ポリシーに従って人材を育成するため、教育プログラムは以下の方針で編成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオベースマテリアルに関する高度な専門的知識を身につける。 2. バイオベースマテリアルに関する最先端の研究を理解し、その問題の真因を見つける。 3. バイオベースマテリアルに関する研究の問題解決のための方法を提案する。 4. 研究室で取り組んでいる課題を理解し、研究活動においてリーダーシップを発揮する。 5. 英語で研究成果を発信し議論する。